

令和2年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校定時制の課程） W05

目指す学校像	・生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	------------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実 3 保護者や中学校との連携強化と学校情報の積極的な提供 4 教職員の働き方改革に向けて、学校全体で業務の見直しや効率化を推進する
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評議員会・学校評価懇話会 書面開催 委員9名から意見等を聴取
--

学校自己評価							
年度目標			年度評価（2月1日現在）				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 小・中学校時代に不登校等を経験し、学校生活に慣れていない生徒が少なからず在籍している。そのため、外部人材や関係機関と連携するとともに、学校行事や部活動を通して、生徒に自立する力を身に付けている。 【課題】 多様な困難を抱えた生徒が、安心できる居場所として期待されるために、生徒指導や教育相談を効果的に機能させる必要がある。 生徒の自主性・自律性・社会性を育み伸ばすために、生徒と職員の信頼関係を深め、教科指導のみならず、学校行事・部活動等の特別活動の充実が必要である。	生徒と職員の信頼関係を深め、生徒が安心できる居場所づくりを推進する	①面談等による生徒理解に努めるとともに、カンファレンスによる情報共有を行い。必要に応じて外部人材や関係機関と連携する。 ②緊急事態を受けて、各行事を精選するとともに、実施行事は内容を充実させる。 ③遅刻率減少に向け、遅刻の統計データを共有するとともに、組織的な遅刻指導を行う。 ④部活動を再開させ、通常の活動に戻す。	①外部人材や関係機関と連携できたか。 ②充実した内容の行事を実施できたか。 ③遅刻者を減少できたか。 ④部活動を通常の活動に戻せたか。	①期末考査後に加え、必要に応じた面談を実施するとともに、高校生自立支援事業で連携した「地域若者サポートステーション」による面談を全員に2回実施した。 ②コロナ禍の影響で多くの行事が中止となったが、内容を精査したうえで学芸祭や遠足などを、県のガイドラインに即して実施した。 ③毎月遅刻回数を集計し、グラフ化した資料を生徒に提示することで、遅刻に対する意識を高めた。 ④県のガイドラインに即した部活動を実施し、野球部は合同チームで大会出場を果たした。	B	個々の生徒に沿った支援の充実を図る必要がある。 ①定期的なカンファレンスにより、生徒の情報共有を行う必要がある。 ②学校行事や部活動等の特別活動の多くが中止されており、コロナ禍における特別活動のあり方を模索する必要がある。 ③月により遅刻率にバラつきがあり、組織的な遅刻指導を充実させる必要がある。 ④県のガイドラインに即した部活動のあり方を模索する必要がある。
2	【現状】 大半の生徒が小中学校の段階で学習にまつまづいた経験をもっている。そのため、わかる・できる体験を積み重ねる指導を行っている。 【課題】 欠点保有者の減少に努める一方、学習意欲の高い生徒を意識した指導を模索する必要がある。 生徒の進路保障を実現するために、県教委の諸事業や外部人材を活用した、粘り強い進路指導が必要である。	生徒の学習意欲を向上させ、自己肯定感を高める取組を推進する	①互見授業による授業改善を進め、わかる・できる学習指導を充実させることで、欠点保有者の減少に取り組む。 ②基礎学力の定着を図るため学習サポーターを適切に配置する。 ③高校生自立支援事業を通じ、生徒の勤労観・職業観を育む。 ④就職支援アドバイザーと連携し、生徒の進路希望を実現する。	①欠点保有者が減少したか。 ②学習サポーターを適切に配置できたか。 ③生徒の満足度が高い高校生自立支援事業が実施できたか。 ④就職支援アドバイザーと連携し、生徒の進路希望が実現できたか。	①コロナ禍による教育環境の変化の影響もあり、昨年度に比べ2学期の欠点保有者は増加している。 ②1学年の授業を中心に3名の学習サポーターを配置している。 ③ソーシャルスキルトレーニングを2回実施した。 ④就職希望の4年生に対し、就職支援アドバイザーによる就職支援講座や面談を実施し、就職希望者の88%を内定することができた。	A	生徒の学習意欲を向上させ、自己肯定感を高める取組を継続していく必要がある。 ①互見授業と意見交換会を継続し授業改善に努める。 ②学習サポーターの配置を精査するとともに、活用法について情報交換を密にする。 ③コロナ禍における支援事業のあり方を模索する必要がある。 ④進路行事や就職支援アドバイザーの有効活用を精査し、進路保障を実現する。
3	【現状】 定時制の特性について理解してもらえるよう、学校説明会や中学校訪問の実施、学校ホームページの更新を行っている。また、PTAによる下校指導に取り組んでいる。 【課題】 定時制の特性についての理解を中学校・地域に十分浸透させるまでには至っておらず、一層連携を深める必要がある。保護者への学校行事への参加を促し、保護者と連携した教育改善を図る必要がある。	学校情報を積極的に提供し、保護者や中学校との連携を深める	①学校ホームページを積極的に更新し、学校情報を発信する。 ②定時制の特色を理解してもらえるような学校説明会・中学校訪問を実施する。 ③保護者と連携した指導にあたるため、PTA下校指導を年間2回実施する。	①ホームページを50回以上更新したか。 ②効果的な学校説明会、中学校訪問ができたか。 ③保護者と協力した下校指導を2回実施できたか。	①ホームページの更新を50回行った。 ②11月末に学校説明会を実施し、12名の受検生が参加した。コロナ禍の影響で、中学校訪問に代わり電話による中学校への情報提供を行った。 ③感染症拡大予防のため、本年度は教職員による下校指導を行った。	A	学校情報の提供により、保護者や中学校との連携をさらに深める。 ①定期的にホームページを更新し、学校情報を発信する。 ②コロナ禍に対応した学校説明会、中学校訪問を検討する必要がある。 ③コロナ禍の影響で困難となった保護者との連携を精査する。
4	【現状】 教職員の働き方改革に向けて、外部人材を活用するとともに業務内容の効率化を図っている。 【課題】 生徒の多様化に伴う教員の負担増大を改善していく必要がある。	各分掌等で方針&総括シートを活用し、負担軽減を行う	①企画委員会の活性化を通して業務の効率化を行う。 ②各分掌等で、業務内容・分担任を確認し、必要に応じて業務の見直しを行う。 ③多様な生徒に対応するため、外部人材の活用と組織的な教育活動を進める。	①企画委員会が活性化したか。 ②業務の見直しについて、検討できたか。 ③外部人材を活用するとともに、組織的な教育活動ができたか。	①職員会議の前日に開催し、各分掌や各種委員会間の常用連携を推進した。 ②各分掌で方針&総括シートをもとに、効率的な業務遂行を行った。 ③S・Cや飯能市役所子育て支援課と連携し、多様な生徒への支援を実施した。	A	生徒の多様化に伴う教員の負担増大を引き続き改善する。 ①企画委員会の活性化に継続して取り組む必要がある。 ②コロナ禍に対応した業務の見直しを検討する。 ③外部人材の活用を継続する。

学校関係者評価
実施日令和3年2月24日（書面開催）
学校関係者からの意見・要望・評価等
コロナ禍の影響により、一人一人の生徒に対するきめ細やかな対応が今後も求められる。多様な困難を抱える生徒に対し、心を寄せての指導をお願いしたい。
授業改善の取組、学習サポーターの適正な配置や就職支援アドバイザーとの連携等の効果が、進路実績などに表れてきている。外部の人材を活用しつつ、引き続き教職員が一丸となつての指導をお願いしたい。
コロナ禍に対応した地域との連携を模索する必要がある。今後も継続的にホームページを更新し、定時制の特性について情報発信に努めてほしい。
働き方改革に向けて、引き続き業務分担の見直しや教職員の意識改革に努めて欲しい。